

会社が地元自治体と対立状態に！

原因は地下水くみあげの「協定違反」？！

マスコミ報道によると、大阪府・摂津市と茨木市にまたがる新幹線の鳥飼車両基地で、JR東海が地下水のくみ上げを計画していることについて、地元の摂津市が地盤沈下につながるとして中止を求め、反発を強めています。

このことは既に8月にも明らかになっていますが、地元摂津市の主張は、過去に地下水のくみ上げで地盤沈下が起きた。1977年に旧国鉄と摂津市が交わした「環境保全協定書」（地下水のくみ上げの中止）を1999年にJR東海と更新を行った。その協定に「違反」として訴訟も検討しています。

一方、会社の主張は、「協定は摂津市内でのくみ上げを行わないとするものだが、今回の計画は基地のうち茨木市の部分で、協定には反しない。また、計画している水の量をくみ上げても地盤沈下のおそれはない」「地下水くみ上げの目的は、震災時に鉄道営業を一日でも早く復帰させるため」と主張しています。

上の写真でも明らかなように、工事計画は、鳥飼車両基地のほんの一部の茨木市側にあたる部分を予定しています。しかし、鳥飼車両基地の多くは摂津市に属しています。この状況を見た時に本当に摂津市の協定とは関係ない。協定に違反しない。と言い切れるのでしょうか？

また、地下水脈は付近一帯でつながっていて区切りがないこと。過去に地盤沈下を起こして摂津市や周辺住民に大きな迷惑をかけたこと。再発防止のために協定が結ばれ更新してきた経緯を考えた時に、今回の様な強引なこじつけの計画が受け入れられるのでしょうか？ 摂津市や地元住民の理解を得るのが最優先のはずです。

地本は、問題点と会社の見解を明らかにするために支社に申し入れを行いました

